



修郎先生の事件簿2

小池雄一氏

～就労ビザ専門会社の現場から～

佐生 修郎(さしゅう・しゅうろう)は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスをを行い、数々の困りごとを解決してきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

大谷 翔平 大変だ、大変だ、レバラン休暇明けに妻の真美子がインドネシアにやってくる。

佐生 修郎 結婚おめでとう。いよいよ美人の奥さまとインドネシアでの新生活が始まるのだね。よかった、よかった(しばらくぼんやり空を眺める)。ところで、家族帯同ビザは取れたのかい？

大谷 それが未だなのだ。だから、今回はeVOA(事前オンライン申請で発行された到着ビザ)での入国になる。

佐生 それならスカルノハッタ国際空港では、自動ゲートを通しての入国になるね。

大谷 あれ？ 自動ゲートってインドネシア人向けだって聞いていたけど。外国人でも使えるようになったの？

佐生 さよう。eVOAで自動ゲートを通じた有志から連絡があった(ありがとう有志！)。空港のイミグレ係員に自動ゲートを使うように指示誘導されるらしい。

大谷 入国スタンプはどうなるの？ スタンプ無しではこの国では不安だよな。

佐生 入国スタンプは擦されない。その代わり、ITK訪問滞在許可証(A4サイズpdfファイル)が電子メールに添付されて送られて来る。宛先は、オンライン申請の時に登録したメールアドレス宛だ。

大谷 送られて来たpdfファイルを印刷して携帯しておけば良いね。

佐生 印刷ができなければ、電子的にスマホに保存しておいてもそれがオリジナルだから有効だ。

大谷 安心したよ。ところで、これから妻向けの家族帯同ビザを申請するので

大谷 ええっ、じゃあ、妻に実験台になれってこと？

佐生 さよう。体育会パスケ部で鍛えた臨機応変な対応能力をもってすれば何でもできるはずじゃ。そして、その経験をシェアして欲しい。

大谷 んん、わかった。それなら彼女には邦人社会の為に有志として頑張ってくれと伝えるよ。事前に概要を話しておきたいから通過プロシージャを教えてください。

佐生 通過プロシージャは簡単だ。ゲートの手前扉が開いたらゲート内に入り、イラスト動画の指示に従いパスポートとビザ上に記載されたQRコードを順番に読み込ませ、顔認証が完了すれば入国扉が開く。

大谷 簡単だ。でも何らかの不具合が発生したら、すぐに諦めて、有人の入国審査カウンターへ移動すればよいね。

佐生 一方で、312就労ビザを持っている人は、自動ゲートは使用不可だ。312就労ビザは今のところ新システムMolinaからではなく旧来システムであるVISA ONLINEから発行されている。だから自動化ゲートの対象外なのだ。データがリンクされていないからね。

大谷 ということは、Molinaから発行されている家族帯同ビザと訪問ビザ(eビジネスビザ)、それにeVOAが今のところの自動ゲート対象と言えるね。

佐生 VOA到着ビザでも、空港で購入する空港VOAでは自動ゲートは通れないぞ。あくまでもオンライン申請取得したeVOAが対象だ。

大谷 自動化ゲートを通れるかどうかは、とにかくMolinaから発行されたビザかどうかの問題だと認識したよ。

佐生 今回はシステム、インデックス、入国方法など変化の範囲が比較的大きい。そういう時には、各々の知識や経験を共有することによって、日本全体の対応能力を高める事が大事だ。翔平君、奥さまの為に、同胞の為に、オールジャパンを意識してどんどん新しいビザ種類の取得や自動ゲート通過に挑戦してね。

自動ゲートを試して！

けど、何か注意点はありますか？

佐生 新システムMolinaでは、旧来の317家族帯同ビザから変わって、E31B配偶者ビザとE31E子供ビザとインデックスが2つに分かれて定義された。

大谷 では今回はE31B配偶者ビザになるね。

佐生 ここで、ひとつお願いがある。聞いてくれるかい。

大谷 自分ができるとはなら何でもするよ。

佐生 奥さまがスカルノハッタ国際空港に到着して入国審査をする時に、自動ゲートを通して入国を試み

たい。

大谷 自分ができることなら何でもするよ。

佐生 奥さまがスカルノハッタ国際空港に到着して入国審査をする時に、自動ゲートを通して入国を試み

たい。

「修郎先生の事件簿2」は、原則、毎月第1水曜日に掲載します。

佐生 修郎 心得の条

一 新システムMolinaから発行されたビザ(家族帯同、ビジネス、eVOA)で入国する場合は自動化ゲートの利用に挑戦してみることに。

二 変化が大きい今、新しく得た知識や経験は日本社会に有志として提供、オールジャパンで共有し、全体的な対応能力を高めることに。

こいけ・ゆういち FPCインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ピー・エム入社。フジスタップへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛ける。帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FC経営を経て、12年8月より現職。栃木県生まれ。57歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合は、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。